



# 青春不再来

「青春不再来」は、大廊下に掲げられている木彫の言葉です。  
「学習、生徒会、部活動などに、生徒は一生懸命です。悩んでいる生徒もいます。でも、どの生徒も、かけがえのない中学校生活を一杯生きている。」という意味です。

## 柿中生徒会の伝統をつなぐ

校長 大塚 啓

節分が過ぎ、どこことなく春の気配が感じられる頃となりました。学校では、卒業シーズンと並行して3年生の入試日程も着々と進んできており、間もなく、卒業式と公立高等学校の学力検査を迎えます。1, 2年生は、そんな3年生の姿を見ながら、次の生徒会を担う覚悟を決める姿が見られます。生徒会の引き継ぎ会では、先輩の言葉に真摯に耳を傾け、うなずきながら話を聴く姿も見られました。



先日行われた、年度の締めくくりとなる生徒総会では、「先輩から受け継ぐべきもの」について次のように生徒に話をしました。

学校の主役は生徒です。3年生は、「主体性+自主性～歴史を創る柿中生～」のスローガンを掲げ、一生懸命に自治の力を発揮してくれました。これから引き継ぎの時期を迎えるにあたって、大事にしてほしいこと、それは、柿中生徒会として、ここは譲れない、という柿崎中生徒会のポリシーを受け継ぐことです。

- ・例えば「あいさつ」：生徒、職員、お客さん、分け隔てなく、自分から相手を見て気持ちの通じるあいさつをする、そんな私たちの心の明るさを受け継ごう。
- ・例えば「いじめ」：いじめは絶対あってはならないことです。柿中生徒会からは、絶対にいじめの加害者も被害者も出さないという精神を受け継ごう。
- ・例えば「仲間との助け合い」：柿中生徒会は、常に助け合いの精神を大切にする組織です。困っている人がいたら、広い心ですぐに手を差し伸べようとする優しさを受け継ごう。

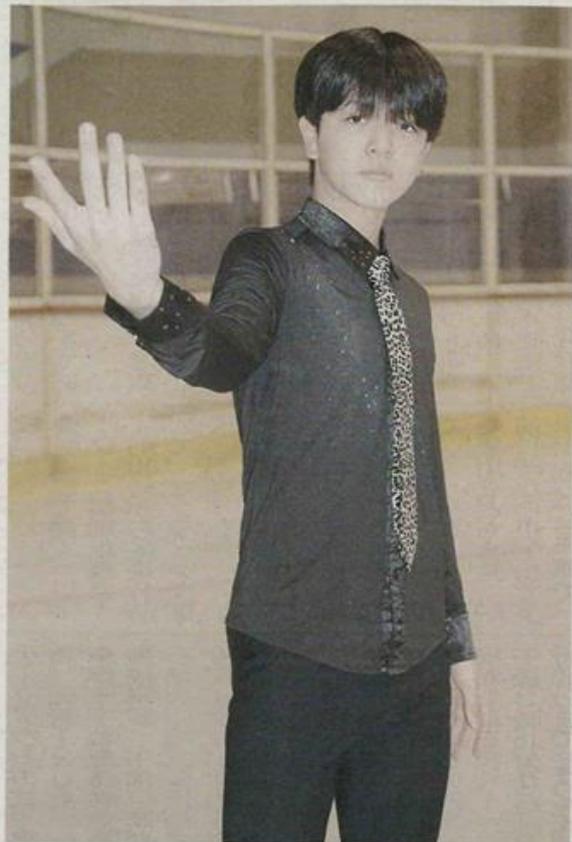
このような、柿中生徒会のよさを次の世代に引き継ぎ、それを守り通してほしい。そして、柿中の伝統をつないでほしいと思っています。

令和4年度もあと1か月と少しです。この時期は慌ただしく日々が過ぎていくことと思います。「忙しい」という漢字は、「心を亡くす」と書きます。また、縦に書くと「忘れる」になります。自分自身を見失うことなく、何が大切なのかを見極め、事の本質を見失うことのないように、子供たちも、子供たちを支える大人も気を付けなければと思っているこの頃です。

引き続き、柿中生徒に対する地域、保護者の皆様の熱いエールをよろしく願いいたします。

# 全国中学校フィギアスケート大会 金子ヒロさん出場

2年連続で全中に挑む金子選手（リージョンブラザ上越）



## 技術と表現力を磨き

フィギュアスケート男子

# 金子選手（柿崎中）2年連続出場

## 2月に長野市で全中大会

第43回全国中学校スケート大会（2月4〜7日、長野市）のフィギュアスケート男子（6・7日、ビッグハット）に、柿崎中2年の金子ヒロ選手（14、新潟FCKZ所属）が2年連続出場する。初出場だった昨年

はショートプログラム（SP）で自己最高点をマークし22位。「今年も自己ベストを出して、昨年より高い順位を取りたい」と話している。

全中フィギュアスケート男子には、日本スケート連盟パジャテ

はショートプログラム（SP）で自己最高点をマークし22位。「今年も自己ベストを出して、昨年より高い順位を取りたい」と話している。

は現在6級を持つという。昨年は、惜しくもフリー進出（SP上位18位以内）には届かなかったが、初の全中で健闘した。

昨季から、SPはアルマゲドンの主題歌、フリー種目をロックバンド「クイン」の歌に乗せて演技している。SPでは難度の高いトリプルルッツ、フリーではトリプルサルコ、トリプルトループの3回転ジャンプを取り入れる。

得意のジャンプに加え、今季はステップ面でも成長し、クラスター（難しい3つのターンの組み合わせを片足で行う）という技

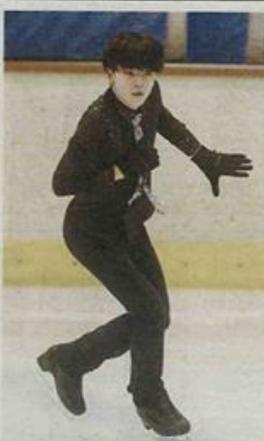
でしっかりとジャッジ（審判団）からレベルを認められるようになったという。

今季は東北・北海道選手権ジュニア男子で総合4位、東日本選手

権ジュニア男子で26位など、各大会で好演技を見せている。現在は「ジャンプの姿勢を崩れることなく、正しい姿勢で跳ぶこと」を意識しているという。

姉の影響で5歳からフィギュアスケートを始めた。将来の夢はプロスケーターになって、アイスショーなどで演技すること。宇野昌磨選手（25）に憧れ、「表現力とジャンプの回転の速さを目標として頑張っていきたい」と以前から目指すスタイルにしている。身長（172センチ）が伸び、増した技術と表現力を全中の舞台で発揮する。

大会前の練習、成長を見せるステップで表現力豊かに



練習はここから  
ステップの動画

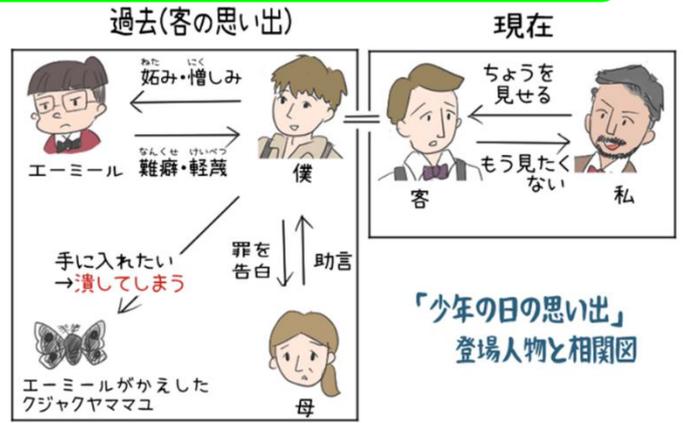
2月6・7日（月・火）に全国中学校フィギュアスケート大会が長野県で開催されました。柿崎中学校から2年生の金子ヒロさんが新潟県代表として出場しました。2月1日に行われた壮行式では、「自分のベストを尽くす」と抱負を語ってくれました。上越タイムス1月27日号に掲載されましたので紹介いたします。当日は、堂々とした滑りを披露し、全国の強豪を相手に、37位に入りました。



# 中学校時代に習った国語を覚えていますか？

## 1年生 少年の日の思い出

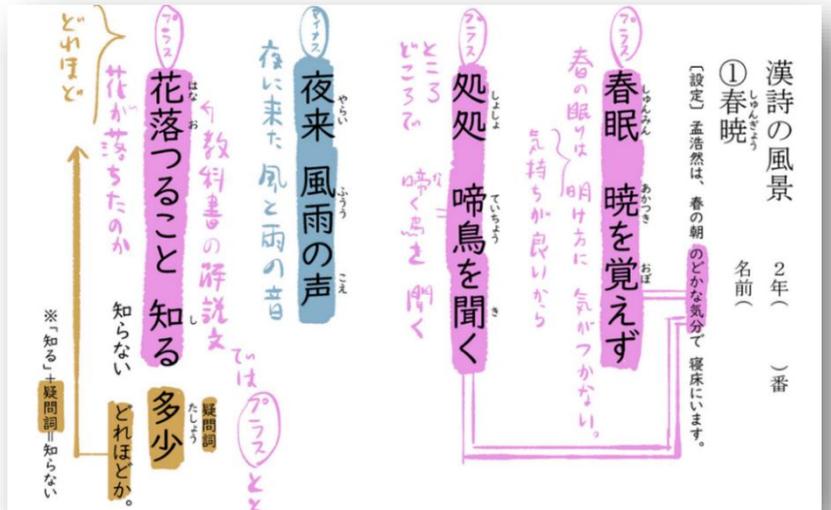
1年生ではヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」を学んでいます。主人公が幼少時代を回顧する小説です。ちょうを盗み、途中で持ち主に返そうとするものの既にちょうはつぶれており、最終的に自分のちょうを粉々に押しつぶしてしまうまでの心情の変化が描かれています。



生徒の感想 ちょうを盗み、持ち出そうとするときの主人公の心の変化が細かく描かれていて、こちらまでドキドキしてきました。エーメールに盗みをしたことを告白する場面の主人公の心情が相手には理解してもらえず、自分なら耐えきれないと思った。

## 2年生 春暁

漢詩を学習しています。作者孟浩然(もうこうねん)は唐代の詩人。「春眠 暁を覚えず」は春の眠りの心地よさを感じさせる句です。漢詩には他にも有名な句がたくさんあります。杜甫の「春望」や李白の「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」などは、古くから日本人に親しまれてきました。



生徒の感想 春の穏やかな感じは、今も昔も変わらず、気持ちのいいものなんだなあと感じた。起承転結の文の構成は、説得力をもたせる漢詩ならではの工夫だと思った。

## 3年生 奥の細道

古典を学んでいます。作者、松尾芭蕉(まつおばしやう)は江戸時代の俳人です。冒頭の「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。」は誰もが暗記したのではないのでしょうか。新潟県の出雲崎では、「荒海や 佐渡によこたふ 天河」という句を詠んでいます。テレビでも俳句を詠む番組が人気をえています。家族で旅行した折りに、俳句大会を開いてみてはどうでしょうか。



生徒の感想

芭蕉の旅にかける思いが尋常ではない。そして旅先での想いや感動を5・7・5のたった17音で表現できるところが素晴らしい。5・7・5のリズムも心地よく感じた。

# 1年生 スキー授業 in 安塚キューピットバレイスキー場



1月18・19日、1年生スキー授業を安塚キューピットバレイスキー場で実施しました。初日は雨雪が降る中でのスキーでしたが、2日目は終日晴天のもと実施できました。コロナ禍で多くの行事が中止や縮小になる中で、予定していた2日間を怪我なく実施できました。多くの生徒が生まれて初めてスキーを体験し、どんどんと上達していく姿をととても頼もしく感じました。スキースクールの先生からは、「真面目に取り組む生徒ばかりで上達がとても早い」とお褒めの言葉をいただきました。

1組 田中 綸さん 一日目は先生から教えてもらったことを試してみたら、うまく滑れました。明日も転ばないように頑張りたいです。二日目はいろいろな滑り方を教えてもらいました。色々なコースで滑れて良い経験になりました。最初は、うまく滑れるか不安でしたが、最後まで転ばずに滑れてとても楽しかったです。

2組 甫仮 琉絆さん 初めてのスキーで、歩くこと、斜面を登ることからスタートだったけれど楽しくできました。リフトに乗って、上から滑ると止まらなかつたり、左右に思うように曲がらなかつたりしました。二日目は、八の字で方向を変えられるようになり、どんどんできるようになって楽しかったです。今度は、家族や友達と来て滑りたいです。

3人前はありそうな  
超・特盛カレー

